

発達障害の特性をもつ労働者支援モデルの開発ー就  
労後に初めてASD/ADHDの診断に至る労働者とその  
職場の支援に向けてー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣田, 幸子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003377">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003377</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 39 号

発達障害の特性をもつ労働者支援モデルの開発－就労後に初めて ASD/ADHD の診断に至る労働者とその職場の支援に向けて－

(Development of a support model for workers with the characteristics of developmental disabilities: With the aim of supporting workers who are diagnosed with ASD/ADHD for the first time after employment and their co-workers)

廣田 幸子 (ひろた さちこ)

博士 (看護学)

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、発達障害の特性を持ち、就労後に初めて ASD/ADHD と診断されるまでの労働者に対する職場の支援モデルの開発を行ったものである。研究は3つの調査研究で構成された。予備研究で「発達障害を持つ労働者」の概念分析をした後、1) 産業看護職 10 名を対象に支援方法の実態を探索的に調査、および 2) 労働者本人と管理監督者、産業医、人事労務担当者、障害者支援専門家の計 17 名を対象にグランデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて支援構造を概念化し、1) の結果と統合して支援モデル案を導きだした。そして、3) モデル案の構成要素に準じて内容的妥当性を確認した質問 40 項目を用いて、発達障害関連の専門職者 60 名を対象にデルファイ法でモデルの妥当性を確認したものである。

開発された支援モデルは、「本人の戦力化の強化」として、労働者の自己理解を高める支援、さらに上司と同僚が労働者の思いを受け止め支える能力を高める「職場の対応力の強化」の二つの支援の方向性が示された。また、職場で発生した困りごとに対して、専門職者が行う解決プロセスである「支援をまわす」活動では、産業医が問題の解決全般を担当し、人事労務管理は人事労務担当者と障害者支援専門家が、さらに日々の問題の解決とマネジメントを産業看護職が担うことが提示された。加えて「支援をつなぐ」活動として、産業看護職と人事労務担当者がモニタリングを行い、就労生活の「安定の維持」を目指すといった援助者の協働が提示された。

本論文は、発達障害の特性を持つ労働者の支援モデルの開発を試みたもので、支援の方向性や職場において複数の職種の人々がどのように支援を分担し、労働者自身を含めてどのような活動を行い、機能するのかを初めて明らかにしたもので、意義ある論文である。よって、本論文は博士 (看護学) の学位を授与するに値するものと判定した